



映像部門



- ① 鹿屋市
- ② MOVIEでかのや
- ③ 2分49秒
- ④ 鹿屋市 政策推進課

①市町村名 ②作品名
③収録時間 ④担当課

講評

企画

- ・ 映像が美しく引き込まれた。ドローンと地上絵のバランスも良い。
- ・ 「都会にはないものがここにはある」というコンセプトは伝わってくるがナレーションの女性の立場が判然とせず、都会に疲れた人の視点で見ればいいのか、鹿屋から都会に呼びかける視点で見ればいいのか、最後までつかみきれなかった。

表現 構成

- ・ 都会の映像から入る構成で、誰に何を伝えたいかが分かった。途中で荒平天神の鈴の生音が入っているのがよかった。とにかくビューティーでつなががちだが、地元の人との会話の映像が入っているのも好印象。
- ・ 鹿屋の美しい映像を見せるというコンセプトなのに、都会の映像から入るのは非常にもったいないと感じた。また、菅原地域ってどこのこと？ と知らない人にとっては疑問が残るのではないかと感じた。

視覚的 効果

- ・ 「瞬間」なので、カット替えも早くやっているのだと思うが、ゆったりとした時間を表す1分40秒ぐらいからは1カットをもうすこし長く伸ばしてもいいと思った。
- ・ 特に菅原地域の紹介パートに入ってから映像の美しさは、菅原地域の魅力を分かりやすく表現していて、非常によいと感じた。

その他

- ・ MOVIEでかのやシリーズを拝見した。マリンフェスやばら園の動画のテイストも好き。そのままテレビで行けるクオリティで驚いた。





令和5年度 鹿児島県広報コンクール

映像部門



- ① さつま町
- ② 救急の日PR動画 多数傷病者対応訓練
~すべては町民のために~
- ③ 1分6秒
- ④ さつま町 警防課

①市町村名 ②作品名
③収録時間 ④担当課

講評

企画

- ・ 消防本部の活動と真剣な表情が印象深く伝わった。
- ・ 消防隊の現場の臨場感や緊迫感を伝えるというコンセプトはしっかり達成していると思うのだが、活動の様子が雰囲気ではか分からず、また映像だけだと訓練なのか、実際の現場なのかも分からない。字幕で構わないので、もう少し説明が欲しかった。

表現 構成

- ・ 字幕と無線の音から入るのは緊迫感が伝わる。一方で、全体尺の3分の2が字幕なので、ちょっともったいない。もっと映像を見たい気がしたが、映画のオープニングのような、かっこいい編集で引き込まれた。
- ・ 冒頭の字幕スーパーと音声だけのシーンや、現場の音を生かした編集など、音声が現場の臨場感や緊迫感を伝える上で、非常に有用だったと思う。

視覚的 効果

- ・ カメラワークとカット替えの編集にこだわりを感じた。制作意図の「臨場感」をさらに出すためには、本編をBGMだけにするのではなく、無線や現場の声掛けなど「生の音」を途中で生かしたほうがさらに良いと思う。
- ・ 緊迫感は伝わってくる映像になってはいるが、使われているカットが色々な場所のアップの連続で、やや単調だった。例えば、救急隊員についていくドリーカットがあれば、さらに現場の雰囲気を伝えられたのではないかな。